

## 「地域、卒業生とのつながりを目指したP T A活動」

### 1 はじめに

現在、岐阜県内には特別支援学校が20校あります。平成18年以降、岐阜県ではより居住地に近いところに特別支援学校を開校する取組が進められ、たくさんの特別支援学校が開校されました。今年度も、新たに1校が開校されました。また近年、特別支援学校における総合化の取組が進められ、様々な障がいに対応していく学校へと変わりつつあり、肢体不自由を対象とする学校は13校になりました。

当校も平成27年度より病弱のお子さんを受け入れ、平成30年度をめぐりに高等部へ軽度知的障がいのお子さんの受け入れをしていく方向で検討されています。また、肢体不自由単独の学校である岐阜希望が丘特別支援学校では、今年度より高等部が開設されました。さらに、来年度は、職業教育に重点をおいた岐阜県内では初めての高等特別支援学校の新設が予定されています。

このように、様々なニーズに応じた特別支援学校の整備がなされていくことは、障がいのある子どもと共に歩む私たち親にとって、本当にありがたいことです。地域のなかに通える学校があることは心強く、安心して生活を送っていただける基本になると思っています。

当校も、以前は県内の遠隔地から寄宿舎に入舎し、学校を卒業された方も多くみえましたが、そうした方も徐々に少なくなりました。それに伴い児童生徒数が年々減少し、今年度は66名となり、10年前の約半数になってしまいました。

しかし、少なくなっていくなかでも、小学部から高等部まで12年間を当校で学ぶお子さんも多く、保護者の多くは長い期間P T A活動に関わっています。また、家族のことで手一杯の状況でも、同じ学年、同じ地区の保護者同士の関係は深く、助言や協力を惜しまず取り組んでいます。

### 2 学校の概要

岐阜県立関特別支援学校は昭和41年、岐阜県における最初の肢体不自由児の学校として「県立岐阜養護学校」の名称で設立されました。平成14年に現在の4階建ての新校舎が完成し、昨年度創立50周年を迎えました。開校初期から高等部が設置され、現在小学部20名、中学部14名、高等部32名の計66名が在籍しています。また、寄宿舎を併設している学校でもあり、男子13名 女子4名の計17名が集団生活を送っています。スクールバスで登下校する児童生徒は14名 保護者による送迎が35名です。



当校は「尽力必成」（じんりょくひっせい）の校訓の基、「豊かな人間性と児童生徒一人一人の発達段階や障がいの状態に応じた生きる力を養い、社会参加・自立できる人間を育てる」ことを教育目標として掲げ、「創意ある教育実践」に取り組んでいます。校章は「さんざし」の花を図案化したものです。さんざしは5月の花（メイフラワー）とも呼ばれ、一年中で最も楽しい季節（5月）の花ということから「希望」「誠実」等の花言葉をもちます。子どもたちが希望と誠実さをもって、たくましく成長していく願いが込められています。

### 3 当校のPTA組織と活動

#### (1) PTA組織

##### ア 運営方針

- ・PTA活動を通して児童生徒、学校職員、保護者、地域の方々との連携、交流を図り、学校教育活動の振興に役立つよう援助、協力する。
- ・ホリデーサークル活動を行い、児童生徒の余暇活動の充実を図るとともに、地区ごとでの保護者、児童生徒の交流を深める。
- ・県内外のPTA関係会議へ積極的に参加し、障がい児者教育への理解と啓発を推進し、併せて障がい者の社会参加、社会自立に向けた取組に寄与する。



##### イ PTA組織

当校のPTAは、本部役員と厚生、進路、広報、学年（小・中・高の3学部）に委員長）の4つの委員会構成されており、全ての保護者がいずれかの委員会に所属しています。それぞれの委員会ごとに、毎年様々なPTA活動を計画、実施しています。また、子どもたちの余暇活動の充実、地域との交流、連携を進めていくため、居住地域ごとに「ホリデーサークル」という名称で、4地区に分かれた活動を行っています。

### 4 地域、卒業生との繋がりを旨とした当校のPTA活動

#### (1) ふれあいまつり

今年で23回目を迎え、当校PTA活動のなかで最も大きな活動です。毎年5月下旬の土曜日に開催しています。食品バザー、日用品バザー、ゲームコーナー、アトラクション、外部団体バザー、高等部作業製品バザー等活動内容は多く、その全ての準備と運営をPTA各委員会が役割分担して行っています。当日の係（駐車場誘導、司会進行等も含め）も、そのほとんどをPTAが担当して行っています。子どもたちは、午前中PTAが企画したゲームコーナー等を回り、午後からのアトラクションに参加し、土曜日的一天を楽しく過ごします。



ゲームコーナー（魚つり）

「ふれあいまつり」という名前のおり、親子のふれあい、地域の方とのふれあいを目的として計画されたものですが、当校の立地場所は、山を削った造成地に建てられており、住宅地からは徒歩や自転車で来校するのにも比較的労力がある場所となります。また、近隣地域には高齢の方も多く、長年「ふれあいまつり」といいながらも、地域の方の参加が少ないことが課題として挙げられていました。そこで、広報の範囲を年々広げていくことにしました。関係自治体へのチラシ配布に加え、地域の新聞業者の協力を受け、新聞への折り込み広告を入れさせてもらったり、市町村広報誌への案内掲載をお願いしたりしました。また、学校が一昨年度より始めた「学校だより」の地域自治会配布の影響も大きく、少しずつ地域の方への学校のアピールが広がっていき、この「ふれあいまつり」への地域

の方の参加も増やしていくことができました。昨年度は創立50周年ということもあり、協賛企業からの寄付をいただいたり、学校オリジナルの焼き印を押したどら焼きの販売を行ったりしました。さらに、チラシにプレゼントの引き替え券を付けたこともあり、当日は本当に大勢の方に学校へ足を運んでいただくことができました。

また、学校所在地区の福祉協議会に依頼し、何名かのボランティアの方に協力をしていただいています。昨年度からは、思い切って高等部で長年交流をしている3つの高等学校へボランティアの依頼をしてみたところ、たくさんの方の高校生の方に参加してもらえ、一緒に当校の児童生徒と関わってもらうことができました。今年は50名近い高校生のボランティアに参加、協力をしてもらうことができました。

この「ふれあいまつり」では、外部団体のバザーも毎回開催しています。数年前からこの外部バザーには、卒業生の方が働いてみえる福祉サービス事業所に案内を出し、出店してもらうようにしました。当校からは少し遠方にあたる事業所の方も、毎年この行事を楽しみにしていただけるようになり、卒業生の方が仕事として参加してもらえる場所、機会として定着してきました。当日は、同窓会総会が開催されることもあり、毎年20名を越える卒業生の方が学校を訪れてくれます。県内全域に居住してみえる卒業生の方が毎年参加できる活動として、この「ふれあいまつり」は、なくてはならない大切なものになってきたといえます。

## (2) 成人を祝う会

この行事は平成20年度から始まった活動です。ずっと以前は比較的障がいの軽いお子さんも多く在籍されていたため、成人式も地元の式に参加ができていたようですが、年々障がいが重いお子さんの在籍が多くなっていき、卒業後に地元の成人式へ参加することが難しい状況がでてきたようです。そこで、当時のPTA会長が「卒業後にみんなで集まれる機会を」ということで、PTAと同窓会の共催で始まりました。外部の会場を借りて行う学校も多くあるようですが、卒業後なかなか思い出深い学校に来られない卒業生も多く、また、学校での実施の場合、運営費が安価に抑えられることもあり、学校の施設を借用して開催しています。式典の部と茶話会の部に分かれて計画し、式典の部には、学校の在籍時に関わりの深かった先生方にたくさん参加してもらえます。茶話会の部では、仕出し弁当をとり、高等部卒業時の担任の先生や寄宿舎の先生方が一緒に参加していただいています。最近では、多くの特別支援学校が設置されたこともあり、中学卒業時に転校される方もみえるようになりましたが、ほとんどの方に当校同窓会会員として入会していただいております。この成人を祝う会に参加してもらっています。



日用品バザーコーナー





### (3) 各委員会行事での取り組み

#### ア 進路委員会（進路研修会）

進路委員会では、毎年「進路研修会」と「施設見学」を実施しています。進路研修会では、行政の方からのお話や施設関係者の方をお呼びしてその取組を伺うことの他にも、卒業生の保護者の方をお呼びして、卒業後の生活の様子を伺ったり、進路を決める時の大切なこと等のお話をしてもらっています。企業へ就労されている卒業生のお話、生活介護の施設に通ってみえる卒業生のお話等、それぞれの立場からお話を聞くことができます。また、在校当時には学部も違い、ほとんど知らなかった卒業生の方の様子を知るよい機会ともなっています。

P T Aの活動とは違いますが、学校の進路講話では、卒業生本人からお話を聞く機会もあり、その時にはたくさん保護者の方が参加されています。

#### イ 厚生委員会（救急法講習会）

「学校だより」が地域自治会に回覧されるようになったことをきっかけに、P T Aの各委員会の活動を掲載してもらい、地域の方にも活動に参加してもらうようにしました。昨年度7月に行った厚生委員会の救急救命講習には、地元自治会長の方にも来校していただき、保護者の方と一緒に救急法を受講していただきました。学校見学もしていただき、これ以降、学校祭や音楽演奏会等にも地域自治会の方が学校まで来ていただく機会が多くなっていきました。



## 5 おわりに

学校のある関市以外の居住地から通ってくるお子さんが多い当校では、地域に根ざした活動を起こしていくことは、なかなか難しいことがありました。特に、P T Aの意識があまり地域には向いていなかったこともありました。しかし、いろいろな立場の方々に学校のことや、子どもたちの障がいについて知ってもらうことは、子どもたちの将来を豊かにしていくことにつなげていく取組でもあることだと思います。

卒業後にいつでも集まれる場所であり、地域の方、交流をしている同世代の学生の方にも関心をもってもらえる学校としてあるように、P T Aも小さな取組を続けていくことが大切だと強く感じています。